

人事評価など今日の課題を共有 今夏も三八管内教育委員会と懇談

例年、県教組三八支部では「地教委キヤラバン」と称して三八管内7市町村教育委員会を回り、懇談を持ってまいりましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響で直接訪問ができたのは八戸市(8月4日)・新郷村(9日)・南部町・三戸町(10日)の各教育委員会でした。五戸町・田子町・階上町は文書での回答となりました。各教育委員会には丁寧に対応いただき感謝いたします。(以下、懇談および文書回答から)

◆人事評価の賃金反映

このことについて、県教組は制度の客観性・公正性・透明性に欠けるとして反対してきました。新たにS・Aの評価区分が加わり評価する側もされる側も緊張感が伴います。そしてその評価になったとしても昇給には反映されない場合もあり、絶対評価といながらも順位付けがされることとなります。本日に教職員の意欲につながるのか、逆に学校の協力協働を阻害する懸念があることを各教育委員会に申し入れました。

八戸市教育委員会は「今回の変更内容については学校教育課長が校長会や教頭会で説明をしている。客観性・公正性・透明性に不安があったらその都度相談に応じたい」、また県教委から示されるS・A区分適用者の上限人数について「評価基準に沿って区分するものであり、必ず上限人数に合わせて評価区分するものではないことを(学校へ)正確に伝えたい」という回答でした。(その後、8月上旬に県から市町村毎の上限人数の通知があり、各学校にたいし「上限人員が何名」と数字が通知されています。この数字が一人歩きしないことを願う!)
一方、郡部の教育委員会では、学校数の減で県からの上限人員の通知をそのまま降ろして学校に任せる、あるいはこれまでどおりの評価付けを学校で行ってもらう回答でした。ある教育委員会は「そもそも評価が必要なのか。人間だから評価者によって尺度が違ってくる。評価する側は本当にプレッシャーだ」と語っていました。

◆加配定数見直しを要望

本県の加配定数を、少人数学級編制や小学校での専科教員増員にシフトさせるよう教育委員会からも要望してほしいと申し入れました。本県のはぐくみプラン未実施である中2・中3の部分と学年1学級の2学級化を、早急に進める必要があると考えます。早くから県独自で全年の少人数学級編制を実施している山形県の加配状況と比べると、本県はTT加配に多く使っており、これを切り替えれば国の施策を待たずにすぐ実現すると説明しました。

◆特別支援学級の問題も

特別支援学級の担任に講師の先生をあてている割合が高く、中には中高の免許なのに未経験の小学校に配置されて担任になっているケースもあり、その方たちへのサポートが十分でないことを訴えましました(裏面記事参照)。担任者本人の不安や保護者の不満の声があることも伝え、教育委員会の対応をお願いしました。
懇談の中で、郡部の教育委員会からは、年度途中に認定され人数が7人に増加した特別支援学級に加配がつかないことの悩み、また現在、通級生が町外の離れた教室に通っている苦しい実状を話してくれました。

◆今年度の学校閉庁日は

南部町が三八管内で一番長く11月16日、階上町は12月16日、八戸市・五戸町・田子町は13月16日でした。八戸市は今回、これまでの13・14日の日にち縛りをやめて夏季休暇が以前より取りやすくなっています。次年度は14月16日が平日ですので、さらに夏季休暇が取得しやすくなりそうです。なお三戸町・新郷村は13月15日に設定していました。

◆支援員の人員配置など

各市町村とも特別支援教育支援員(スクールサポーター)は、従前どおり各校に配置。中学校部活動指導員は八戸市8名、三戸町3名、五戸町は今年度新たに1名配置となっています。田子町の「学びのアドバイザー」は各校の授業の支援や夏休みの「たっこ塾」運営を行っています。

るそうです。

八戸市では学校司書の人員を増員し10名体制で、市内各校の図書室を回ってまわっている。また今年度も医療的ケア児対応看護支援員を小学校2校中学校1校に配置しているそうです。理科観察支援アシスタントは八戸市で4名、階上町では2名確保しているとのこと。ICT支援員は八戸市、三戸町、新郷村で配置されており、ICTを活用した教育活動の支援等を行っているそうです。

◆学校統廃合はどうなる

八戸市では今年度末に日計ヶ丘小学校が閉校し根岸小学校へ統合となります。南部町では来年度から向小学校・南部小学校が南部小学校に、福地小学校・福田小学校・杉沢小学校が福地小学校(校舎は福田小)に、剣吉小学校・名久井小学校・名川南小学校が名川小学校に(校舎は名久井小)、杉沢中学校が福地中学校と統合することになっています。町内の小学校8校が3校に、中学校は4校から3校になります。田子町では来年度から上郷小と清水頭小を田子小学校に統合します。小中各1校になります。

階上町は道仏中学校の統合を6年度から検討の予定だそうです。

五戸町では検討委員会の答申を受けて計画策定中とのこと。動きはこれから。というところで、こんなにあるのかと驚きを隠せません。これは今年度末はかなり大きな異動となります。

※給食費の無償化についての管内の状況は裏面記事に掲載しています。



夏の協力カンパ ありがとうございました。

- | | | |
|--|--|---|
| 八戸小
湊小
青潮小
明治小
桔梗野小
島守小
第三中
湊中
白銀中 | 白銀南中
南浜中
白山台中
下長中
是川中
三市川中
島守中 | 三戸小中
五戸小
川内中
倉石中
清水頭小
南部中
階上中 |
|--|--|---|

合計 262,930円
(8/22現在)

給食費無償化を公約せず!



学校給食費の無償化に関しては、県内でもいち早く実施している新郷村・南部町をはじめ、一昨年度から階上町が完全無償化、また五戸町でも無償化を検討すると今回の懇談で回答しており、前向きな動きが感じられます。

八戸市はどうか。私たちも毎年の懇談では折に触れて要請し、また八戸市議会でも度々一般質問で取り上げられています。財源を理由に難色を示す回答の繰り返しでした。

ここにきて7月21日に青森市が10月から無償化を実施すると発表、中核市では小中学校とも無償化にするのは全国で初めてだそうです。今年度は新型コロナ臨時交付金を充て、次年度以降は別に財源を確保するとしています。ここに至ったのは「学校給食の無料化をめざす青森市民の会」による学習会や署名活動、議会請願などの運動が、市民に支持され拡がっていったからです。県内の市部では五所川原市や平川市などです。無償化を実施、現在24市町村、6割の自治体だが何らかの形で無償化を実施または実施予定となっている。

ます。各地で無償化を公約にあげた首長が当選しています。

9月9日に公表された文科省の調査では、全国の83パーセントの自治体が何らかの保護者負担軽減を行っているという結果が出ています。国からの新型コロナ臨時交付金を給食資材の高騰対策に充てている自治体が増えています。

政府は過去に、義務教育無償について授業料だけでなく学用品や学校給食も無償化したいが財源がないと答弁した経緯があり、それが今日まで続いています。本来は国でやるべきことですが、自治体で実施するのはおかしなことではありません。これは「親の願い」であり「子どもの願い」です。就学援助で給食費を納めなくてもいいという他の子との違いは、子どもの責任ではありません。

子育てや教育の保護者負担軽減は少子化対策であり、かつ義務教育無償化の理想です。少しでもここは八戸市も頑張ってもらいたい。給食費無償化は正念場を迎えていると考えています。実現のために行動しましょう。

『次世代の仲間へ』

執行委員長 小泉 真

「熱中時代」「中学生日記」「3年B組金八先生」「みにくいアヒルの子」・・・学校を舞台としたテレビドラマは数多くある。そんな番組を学生の頃に見ているうちに教員に憧れ、現在に至っている方もいるだろう。教員を目指すことになったきっかけは、人それぞれである。小・中学校時代に出会った先生に心を惹かれていったパターンも多くあると思う。

今年も青森県公立学校教員採用候補者選考試験が行われている。七月二十三日には、千名あまりの受験生が教員を目指して第一次試験を奮闘した。九月二十三日・二十四日には、第二次試験が行われる。ぜひとも次世代の青森県の教員になれるよう、がんばってほしいと願っている。

「過酷勤務」「業務拡大」「精神疾患」・・・近頃、教員の勤務状況をとりまく言葉は限りなく濃い。「働き方改革」が叫ばれているが、なかなか根本が改善されない。このような現状でも、志と希望をもって採用試験に挑む若者たちを応援していきたい。

私たち現場は、次世代に教員の楽しさを伝えていくのが役目の一つだと思う。「子供たちと一緒に学ぶことが楽しい」「保護者や地域の方と一緒に活動することに価値を感じる。」「この職場に、居場所がある。」そして、「仕事ばかりでなく、プライベートも充実している。」このような教員の後ろ姿を見せていければと思っています。

三八支部定期大会終わる

7月16日(土)、八戸市スポーツ研修センターにおいて10名の参加により支部体制や今年度の方針などを話し合いました。

【お知らせすること・話題になったこと】

- ・詩集「花園」は今年度61号の発行をもって終刊とする。
- ・支部の事務所(現在のアパート)から、来年4月目処に移転することを決定。家賃半額のところを物色中。
- ・支部の会議に参加した場合、参加手当(仮称)をつける。勤務を終えてから20時まで、または土日の時間帯に参加しても交通費のみの支給(ZOOM参加は0円)だったので、少額でも手当を出すことに。
- ・支部会計で管理している「主任手当拠出金」の活用について本格的に検討する。→子どもたちに還元されるように。
- ・学校閉庁日を八戸市は日付(13・14日)で決めていたが、今年度は4日間(13日~16日)になった。これまでの申し入れしてきたことで改善されました。
- ・下記は障がい児部長が、問題だ!ということでの報告がありました。

特別支援学級担当者と講師の割合について

小学校 八戸市内41校中

教諭 544名 講師 68名 … 講師の割合11%

講師68名中 特別支援担当者は31名(通級担当2名含む) … 46%!

知的障害学級担当者31名のうち講師は13名(42%)

自閉・情緒障害学級担当者58名のうち講師は16名(28%)

合計 89名のうち講師は29名(33%)

中学校 八戸市内24校中

教諭 366名 講師 40名 … 講師の割合11%

講師40名中 特別支援担当者は14名(病弱・通級担当2名含) … 35%!

知的障害学級担当者21名のうち講師は5名(24%)

自閉・情緒障害学級担当者29名のうち講師は7名(24%)

合計 50名のうち講師は12名(24%)

※考察

- ・非正規の教員で特別支援教育が支えられている現状。
- ・講師は人事の希望が考慮されにくい、次の雇用への影響考えて自分の希望を話すのが難しい。
- ・支援学級の中には希望する教諭なく講師に担当させている場合がある。毎年担当者が変わり、子どもが落ち着かないし保護者の不安感が大きい。子どもも自分も大切にされていないという感情を抱く講師もいる。
- ・小学校では、中・高の教員免許状所有者が支援学級を担当している事例。しかも小学校に赴任してすぐ支援学級を任された。

(この問題は8月4日、八戸市教育委員会との懇談の席でも報告され、講師へのサポートを要請したところ。)

